

▶執筆 人権教育課 (市役所内線 4012)

あなたにはあなたのよさがある

わが家ではお盆に兄弟姉妹が集まって、夏のひとときを一緒に過ごすことが恒例となっています。中学生のおいはとても面倒見がよく、幼い子どもたちを引き連れて遊んでくれます。しかし、勉強に対する苦手意識が強く、学校にうまく適応できていないところもあることから、私はおいに「学校はどうや」「困ってないか」と声を掛けるようにしています。

2学期が始まる9月1日。学校で久しぶりに友達と話をしたり、みんなで勉強したりすることを楽しみに登校する子どもの姿を見掛ける方も多いのではないのでしょうか。一方で、おいのように勉強に対する苦手意識が強い子や、学校が始まることに不安を感じる子がいることも忘れてはいけません。事実、自殺総合対策推進センターが発表している昭和48年から平成27年における「通学適齢期の自殺者数に関する分析」によると、9月1日の自殺者数が一番多いとの



報告があります。

現代社会においては、地域の人間関係が希薄になっており、子どもを取り巻く人間関係が家庭や学校に集中しているため、子どもたちは助けを求めづらかったり、大人が子どもたちのSOSをキャッチしづらかったりするのかもしれませんが。全ての子どもが命が守られ、持って生まれた能力を十分に伸ばして成長できる社会でなければなりません。

おいには「あなたにはあなたのよさがある」といつも伝えています。これからも温かく寄り添い続けようとする伯父でありたいと思っています。皆さんも普段よりも少し意識をして、身近な人や、とりわけ子どもたちに目を配ったり、温かな言葉を掛けたりしてみませんか(25頁に関連記事)。



柱穴に納められた小皿



焼けた建物跡の発掘作業風景



日野北バイパスの建設工事に伴って発掘調査が行われた野中・高ノ坪遺跡(約1800年前)の竪穴建物跡4棟を含む集落跡のほか、飛鳥時代や室町時代の建物跡が見つかりました。弥生時代の建物跡では、焼けた建築部材の下につぶれた土器が出土しており、焼失時の崩落で土器が押しつぶされたことが分かります。また、室町時代の柱穴の一つには、32枚以上の小皿が納められていました。これは建物が役目を終えた後、柱穴に土器を納め手厚く祭祀を行った跡だと考えられます。その他にも同時代の土器が大量に出土しており、人々の生活の一端が明らかとなりました。

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪

▼問合せ 郷土資料館(☎235992)

市長からの手紙

ー西脇を元気に!!ー



西脇市長 片山象三

『明るい未来を感じるまちに2025年大阪・関西万博』



西脇市と多可町がタッグを組んだ「協議会」。魅力発信に取り組みます。

西脇市出身の経団連・十倉雅和会長が運営のトップを務める大阪・関西万博まで60日を切りました。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催される万博には、2820万人の来場が見込まれており、全国・世界から関西エリアに注目が集まる絶好の機会。万博に向けて、兵庫県では地域ならではの体験ができる「フィールドパビリオン」の取り組みが進められています。播州織など多くの共

通資源を持つ西脇市と多可町は、県の取り組みとともに地域を盛り上げようと「西脇・多可万博交流活性化推進協議会」を立ち上げました。万博をテーマに、地域の未来の姿を考える協議会の設置は北播磨では初めて。複数の自治体が連携するのは県内初です。先月の第1回会議では、参加員から「ご当地グルメなどの食を活用して人を呼び込む」「住民が地域の魅力を再発見できる機会としたい」など、さまざまな提案や熱い思いをお聞きしました。万博本番に向け、西脇・多可の魅力発信に取り組んでまいります。一方で、ポスト万博を見据えた動きも大事だと考えています。2025年の万博、万博が終わってからの未来、この2つの視点から持続可能なまちづくりを進めますので、市民の皆さまも一緒に盛り上げていただければと思います。活力あふれるまち西脇市をと創ってまいります。

みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー

子どもたちの成長を目指して

市民提案型まちづくり事業採択団体の紹介

西脇ジュニア陸上クラブは、陸上競技の指導などを通して、子どもたちの健全育成、地域のスポーツ文化や地域コミュニティの活性化を図ることを目的に活動しています。

昨年度は約50人の小学生に、正しいフォームでの走り方やバトンパスの方法、ハードル競走などの指導や記録会などを開催。市内外から集まった仲間たちとの日々の練習が自身の記録更新につながることで、また、学校間を超えた新しいコミュニティの形成が、子どもたちのさまざまな成長の一助となっていると感じています。



これからも、地域の方や企業に活動の支援をいただきながら指導・協力体制を強化し、子どもたちの成長につながるような取り組みを行っていきます。

西脇の自然 594

ウラギンシジミ

しじみちょう科



翅の裏が銀白色に輝いていることからこの名が付けられました。この写真は雄で、雌は翅のオレンジの部分が淡い灰青白色になるため、まるで違うチョウかと感わされます。翅の先端部がとがっているのが特徴で、翅を広げると4センチくらいになります。

幼虫はまめ科の花やつぼみを食べ、クズの花のつぼみに似せた擬態をしています。しかし、角を持つ幼虫には珍しく、尻側に2本の角を持っているため見分けることができます。

成虫は5月～10月ごろに2～3回出現。雨上がりの湿った道路や熟した果実などに群がり、給水しているところを見掛けます。まれに人の汗を吸いに手に止まることもあります。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】